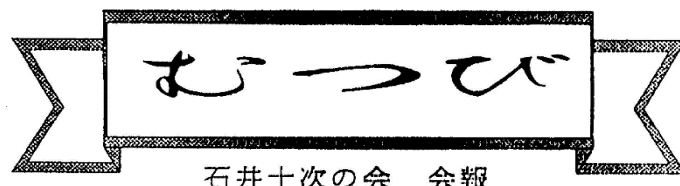


2026 年
(令和 8 年)
1 月 1 日



340 号

年頭のごあいさつ

石井十次の会会長 橋田 和実

皆様、令和 8 年明けましておめでとうございます。

今年は石井十次の会が発足して 29 年目となります。昨年も一昨年と同様、全国的に 7 月から 9 月にかけて 35℃ を超す猛暑が続きました。これからは毎年こうした猛暑が続き、秋が短くなるのではないのでしょうか。世界中そして日本各地で大規模な自然災害が多発しております。農作物にもかなりの影響が出ています。また、戦争や地域紛争も終息を見せず、トランプ関税の影響などによって世界中が混迷しています。わが国ではこれらによる物価高騰が著しく仕事や生活が困難な状況となっています。

そんな中、わが国では初めての女性総理大臣が誕生しました。不安を持たれる国民もいらっしゃるかも知れませんが、この際、日本の改革、復興のために期待するところが大きいのではないのでしょうか。

さらに、地方においては、人口減少と少子高齢化進行が著しく、各種産業においても人材不足が生じています。このように、社会の変化や複雑多様化した世の中を私たちは生き抜いていかなければなりません。

さて、昨年は 9 月末から 10 月初めにかけて、2 回に分けて、石井十次のルーツを訪ねて岡山研修旅行が行われました。石井十次の会会員と友愛社職員の皆様計 77 名が参加しました。2 泊 3 日の行程でしたが、初日と最終日は貸し切

りバスに乗って約 10 時間の旅となり、実際の視察研修は 2 日目の 1 日のみとなりました。それでも往復のバスの中では、『石井のお父さんありがとう』の DVD 鑑賞、各々の自己紹介や視察の感想を述べたり、クイズをしたりして、参加者間の交流ができました。

2 日目の午前中は石井十次孤児院発祥の地、岡山市上阿知を訪ねました。上阿知では石井十次の会会員でもあり、発祥の地を保存管理して頂いている地元の方々に大歓迎を受け、快く見学と交流をすることができました。午後からは倉敷に行き、美観地区にある旧大原邸、大原美術館、児島虎次郎美術館、クラレ IB スクエア、加計美術館などを見学しました。さらに、倉敷中央病院を訪ねました。石井十次の最大の支援者であった倉敷レーヨン社長の大原孫三郎は事業経営に二宮尊徳の思想と石井十次の精神を取り入れ、世のため、人のために社会貢献をしっかりと果たしていました。特に、倉敷中央病院は利益追求ではなく、患者や地域のために役立つ病院として発展していました。

石井十次の精神の源となる、熟考、即断即行と利他の心は少年時代に育まれ、岡山に来てキリスト教に入信してから、その精神がさらに増幅、確実なものになったことが今回の岡山研修で考えさせられました。岡山と宮崎県の花畑で約 3,000 人の孤児を立派に養育した偉業は石井十次の精神の賜でありました。ぜひ皆様も岡山市と倉敷市を訪れて頂き、石井十次精神のルーツと偉業を感じ取っていただくと、素晴らしいと思います。

最後になりましたが、令和 8 年も皆様方にはご健勝で幸せに過ごされることを祈念し、石井十次の会へのご支援とご協力をお願い申し上げあいさつと致します。

「石井記念 神武の家」の子ども達と交流して思うこと

高原町 郡山登喜子

「石井十次の会に入って、神武の家の子も達を応援しませんか」と、声をかけてもらい、入会して2年が経ちました。それから、様々な行事に参加することで子ども達と接する機会が増えました。当初は、「石井十次先生」と聞いたとき、若い頃の保育実習での苦い経験を思い出して、不安でした。保育士の資格を取得するために、都城にある「石井記念 有隣園」に3日間泊まり込みで実習をしました。同級生3人で参加したのですが、思春期の子ども達とどのように接すればよいのか戸惑い、緊張しながら日中は過ごしました。一日の活動が終わり、やっと就寝。ぐっすり寝込んでしまい、翌朝、目を覚ますと、「しまった」と慌てました。実習生3人は、まったく目が覚めずに、やらねばいけない夜の巡回をしていなかったのです。その後、園長先生のところに「すみませんでした。寝込んでしまい、夜の見回りをしませんでした。」と、謝りにいったのを鮮明に覚えています。



ふれあい感謝祭での交



「石井十次の会 西諸支部」では、神武の家の子も達と様々な活動を通して交流をしています。3月のいちご狩りでは、子ども達に負けないぐらいたくさんいちごを頂き、その後は、場所を公園に移して交流会でした。子ども達と学校のことや楽しみなことなど話したりしました。この時、子ども達がとても明るく、ひとなつっこいと感じました。神武の家の清掃や草刈りな

どもにも参加するのですが、私は、あまり力仕事は得意ではありません。しかし、子ども達と一緒に作業をしたり会員同士で話をしたり、楽しく参加できます。毎月、子ども達と職員の皆さんが狭野神社の清掃をしてくださっていることもありがたいことです。特別な事がないと参拝しなかったのですが、私も子ども達と一緒に清掃することになり、参拝の機会が増えて感謝しています。

「石井記念 有隣園」で、子ども達との接し方が難しかった経験から、神武の家の子も達が私を受け入れてくれるか心配でした。しかし、「こおりやまさん」と気軽に名前を呼び話しかけてくれます。行事に参加するたびに子ども達とのふれあいや会員同士の交流が楽しく、もっと早く会員になっていればよかったと思うくらいです。これからも、子ども達のためにできることを一つでも多く取り組み、「石井十次の会」会員として協力していきたいと思っています。



NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟」と茶臼原孤児院

正月から NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟」が始まりました。主役である秀吉の異夫弟・羽柴秀長は、今を去る 438 年の昔（天正 15 年）、桜の散り残る 4 月に 15 万もの大軍を率いて高鍋平野にやってきました。九州征伐で島津軍と一大合戦を交えるためです。迎え撃つのは島津義久を総大将とする島津軍 4 万。合わせて 19 万もの軍勢が小さな高鍋平野に集まったのはこの時が最初でかつ最後でした。羽柴秀長軍は島津軍が守る高城を攻めるため、茶臼原台地に強固な陣地「根白坂陣地」を構築しました。島津軍は高鍋城を拠点として、台地の南側の宮田川沿いに布陣したと想像されます。

つまり、いま石井記念友愛社が存在する場所と友愛社が所有する農地の一帯は島津軍の陣地だったのです。大河ドラマではいつごろこの地が舞台となるかは予測できませんが、秀長の重要な戦歴の場所であり、黒田官兵衛、小早川隆景、吉川広家など名だたる武将が参戦した合戦なので、必ず映像で見られるでしょう。

義久の弟・義弘は勇猛をもって聞こえた武将で、彼の軍勢は島津軍の最精鋭として恐れられ、当たるところ敵なしといわれました。義弘は根白坂陣地を急襲しようと企て、4 月の闇夜に夜襲をしかけます。根白坂陣地を守るのは羽柴軍の歴戦の武将・宮部継潤です。陣地は二重の空堀で守られ、内側には強固な柵があります。その中で待ち構えるのは鉄砲隊です。武勇を誇る義弘軍は、夥しい鉄砲の連射をうけて多数の死傷者を出して撤退します。義弘は懲りることなく、次の日も夜襲をしかけます。しかしまたもや撃退されてしまいます。島津軍の総大将・島津義久は、この戦は勝てないことを悟ります。戦のやりかたが変わってしまっていたのです。鉄砲隊の連射の前には島津の武勇は通じなかったのです。根白坂陣地と現在の石井記念友愛社は 0.5 Km しかはなれていません。この一帯は戦場で、死傷者が累々と横たわっていたに違いありません。5 月 8 日、島津義久は剃髪して秀吉に降伏しました。

そして 8 月になると、筑前秋月の地で秀吉に敗れた秋月氏主従千数百人が、高鍋に移封され、移動してきました。彼等もまた、軍馬に踏み荒らされた高鍋の地で、困難な生活をはじめなければなりません。16 年後（1603）江戸時代となり、秋月氏は高鍋藩主となります。

それから 262 年後（1865）高鍋藩の下級藩士の家に石井十次は誕生します。十次が 22 歳になった明治 20 年（1887）、岡山の地で孤児院を開設しました。その年 12 月、十次は父・万吉と義兄・岩村真鉄と相談し、茶臼原の原野 20 町歩を購入しました。そこは 300 年前まさに戦場であった土地でした。明治 27 年に茶臼原移住を開始し、一時中断しましたが大正元年には移住を終了します。

十次が戦場であった茶臼原の地を孤児養育の場所ときめた理由は「生を失った者たちへの鎮魂と生を受け継いだ者たちへの祈り」があったのだと思います。

（編集委員 石川正樹）

この会報は、宮崎県を中心に全国 1700 余の個人・団体に毎月送付しています。

☎ 884-0102 宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1

社会福祉法人 石井記念友愛社後援会

石井十次の会

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-juuujinokai@kijo.jp

編集後記

巻頭言は橋田会長にお願いしました。橋田会長は後進の育成のため「ふるさと創生塾」を開設されました。十次の志を引き継いだ塾です。大いなる期待をもって応援したいと思います。